

市職員による鳥獣被害対策隊と実施隊や住民による地域ぐるみの被害対策 (埼玉県飯能市)

- 市職員による鳥獣被害対策隊を結成し、希望者が狩猟免許(わな)を取得して、市職員と猟友会による実施隊と共にニホンジカ及びイノシシを捕獲
- パトロールでの声掛けや情報交換会等、地域と交流する機会を作ることで、被害対策への意識と理解が向上
- LPWA通信(省電力、長距離無線通信)網を利用した、ニホンジカ及びイノシシの捕獲罠監視システムを導入して捕獲活動の効率化を図り、捕獲従事者の負担を軽減
- 市鳥獣被害対策室からサルの位置情報メールを配信し、地域と情報共有しながら予防対策と追い払い活動を強化

取組内容

- 鳥獣被害対策隊と実施隊が、ニホンジカ及びイノシシの被害報告に応じて捕獲活動を実施
- パトロールや情報交換会を通して地域住民とのつながりを作り、捕獲活動を強化
- サルに装着した発信機やパトロールで群れの位置を把握し、その情報を対策室からメール配信することで、地域と連携しながら組織的な追い払いが可能に



くくり罠設置講習の様子



地域住民との座談会の様子



サルの追い払いの様子

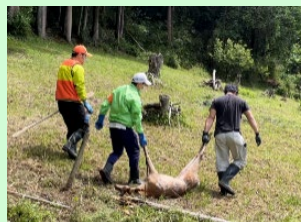
- 罠監視システムの導入により、罠の状況を携帯電話で確認できるようになり、捕獲活動が効率化。隊員の負担も軽減



監視システム設置の様子



捕獲されたニホンジカの様子



捕獲個体搬出の様子

成果

- 令和2年度のニホンジカ捕獲実績は455頭となり、対策隊及び実施隊が設置される前の平成28年度(158頭)と比べ約3倍の成果
- 情報提供、罠の監視、捕獲個体の運搬等、地域住民の協力や応援もあり捕獲実績が向上
- 対策隊の活動が地域に波及し、地域住民による自主的な捕獲活動に発展
- サルの位置情報メールの配信による情報共有で、組織的な地域のサルの追い払いが可能に

今後

- 捕獲活動や被害対策を担う人材を確保・育成
- 地域のネットワークを利用して、さらに情報共有の輪を広げ、被害対策に活用
- 対策活動を契機とした地域の活性化

市職員による鳥獣被害対策隊と実施隊や住民による地域ぐるみの被害対策(埼玉県飯能市)

- きっかけ・背景
- ニホンジカ、イノシシ、サル、アライグマ等による農業被害と生活被害の増加
 - 市民からの対策要請

- 課題
- 耕作放棄地の増加等でニホンジカやイノシシの生息域が拡大
 - 高齢化や人口減少による地域のつながりの希薄化

- Step1 鳥獣被害対策隊(H29～)
- 市職員による鳥獣被害対策隊を設置(H29.4)
 - 市職員と猟友会員による実施隊を設置(H30.1)
 - 鳥獣被害対策室を市役所農業振興課内に設置(H30.4)

- Step2 捕獲と電気柵普及(H29～)
- 地域からの被害報告に応じて、対策隊と実施隊が捕獲活動を実施
 - 対策室が講習会を開催。電気柵を普及し、アライグマの捕獲従事者を養成

- Step3 サル対策(H30～)
- 対策隊が地域をパトロールして、放任果樹の調査やサル対策のチラシ配布を実施
 - 実施隊が発信機で確認したサルの群れの位置情報を、対策室からメール配信し、地域住民と連携した追い払いが可能に



電気柵設置講習会



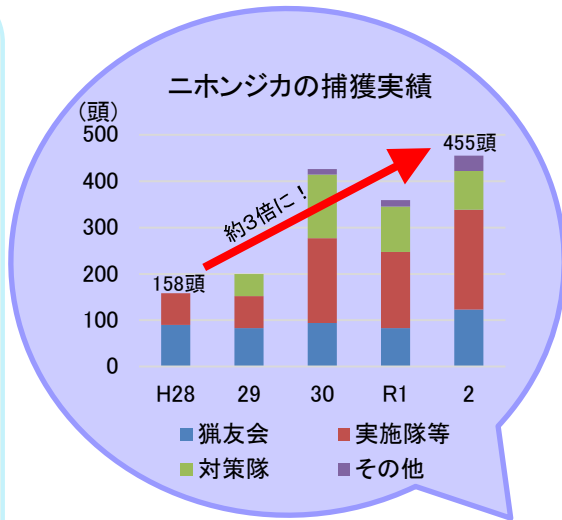
地域の捕獲活動



実施隊員による授業



市民のアライグマ捕獲



取組による成果・効果

- 取組の特色
- 職員が積極的に地域に入って活動することが、飯能市鳥獣被害対策隊の原点であり、その活動を地域ぐるみの対策に発展させることを推進
 - 行政主体の鳥獣被害対策から、地域と行政との連携を強化しつつ、対策を市民主体の活動に発展させる
 - 鳥獣被害対策を通じた、地域ネットワークの強化や地域の活性化

- 令和2年度のニホンジカ捕獲実績は455頭となり、対策隊及び実施隊が設置される前の平成28年度と比較すると約3倍の成果
- 対策隊と実施隊の活動に地域住民が協力してくれるようになり、地域の対策意識や捕獲実績も向上
- 地域住民の自己防衛の意識が向上し、電気柵設置による被害軽減や自主的な捕獲活動が活性化
- LPWA通信網を利用した捕獲罠監視システムを導入して捕獲活動の効率化を図り、捕獲従事者の負担を軽減